

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

政策	2 地域の魅力と活力を高めるまちづくりを推進します
----	---------------------------

施策	1 都心の機能を補完する地域拠点の整備及び官民協働で進めるまちづくり
----	------------------------------------

施策の目的	本市の東西交通軸上に位置するJR草薙駅及びJR安倍川駅の周辺地区は、コンパクトシティを目指すうえで重要な地域拠点です。これらの地域拠点は、交通結節点としての役割だけでなく、地域の交流の場としての機能を担うことから、官民連携のもとJR静岡・清水・東静岡駅周辺の機能を補完し、地域の特色に応じたまちづくりを進めます。
-------	--

評価責任者	所属	都市局 都市計画部 市街地整備課
	氏名	課長 高田 千央

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	安倍川駅及び草薙駅周辺地区では、新駅舎・自由通路や駅前広場等の整備による交通結節点機能の強化を図った。また官民連携による地域の特色に応じた活発なまちづくり活動により、地域交流の場として発展しており、年々の駅乗降客数の増加傾向も踏まえ、総合評価は「A」とした。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、成果指標であるJR安倍川駅・草薙駅の乗降客数が正常時の数値であるとは考えられないため、評価することはできない。
	令和3年度	—	理由	JR安倍川駅、草薙駅の乗降客数については、令和2年度と比較して増加傾向にあるものの、緊急事態宣言等による人流抑制や在宅勤務の普及など新型コロナウイルス感染症の影響が大きいことから、コロナ禍前に設定した目標値に対する成果として適切に評価することができない。
	令和4年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	JR安倍川駅、草薙駅の乗降客数について、令和3年度と比較して増加したものの、目標値を達成できずそれぞれ「b」評価であったことから、総合評価は「B」とした。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。 A：施策の目的が達成されている。 B：施策の目的があまり達成されていない。 C：施策の目的が達成されていない。 —：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
成果指標	JR安倍川駅の乗降客数	9,568人/日 (平成29年度)	1	1.5%増 (9,708人/日)	1.5%増 (9,708人/日)	100.00%	a	第3次総合計画（H27～R4）での指標設定によりJR安倍川駅の乗降客数は現状値をH24の乗降客数として、これに対して8ヶ年で10%増加することを目標としている。 ●H24時点の現状値 9,016人 ●R4の目標値 H24時点の乗降客数の10%増で9,016×110%=9,918人
			2	2.2%増 (9,778人/日)	18.5%減 (7,796人/日)	79.7%	c	
			3	2.9%増 (9,848人/日)	15.3%減 (8,100人/日)	82.3%	c	
			4	3.7%増 (9,918人/日)	10.7%減 (8,544人/日)	86.1%	b	
	JR草薙駅の乗降客数	18,382人/日 (平成29年度)	1	0.7%増 (18,513人/日)	19.3%増 (21,922人/日)	118.4%	s	
			2	1.1%増 (18,578人/日)	9.6%減 (16,616人/日)	89.4%	b	
			3	1.4%増 (18,644人/日)	0.7%減 (18,508人/日)	99.3%	a	
			4	19.3%増 (21,922人/日)	10.5%増 (20,312人/日)	92.7%	b	

【草薙駅周辺地区】
 (R元年度)
 ・令和元年度末の草薙駅周辺整備事業全体の事業進捗率（事業費ベース）は市道草薙南4号線拡幅工事が一部残工事となっているが98.0%の達成となった。このうち草薙駅南口駅前広場については整備が100%完了した。
 ・当初計画の南口イベント広場に加え、北口芝生広場も都市再生推進法人草薙カルテッドと、都市利便増進協定を締結した。
 (R3年度)
 ・JR草薙駅南北自由通路の広告事業に関して、都市利便増進協定を締結した。
 (R4年度)
 ・JR草薙駅北口駐輪場を供用開始した。

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

(千円)

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
草薙駅周辺整備事業	①JR草薙駅北口駐輪場の整備	1	1	14,188	200,765	207,601	6.0	1.0	0.0	○
			2	11,600	0	8,746	4.0	0.0	0.0	
			3	115,000	0	114,759	2.0	0.0	0.0	
			4	0	0	0	0.0		0.0	
草薙駅周辺におけるエリアマネジメントの推進	①草薙駅南口メインストリートの利活用検討 ②あかり（照明）のまちづくり事業の実施 ③移動しやすい環境づくりの検討 ④草薙駅南口グランドデザイン研究会の開催 ⑤草薙駅周辺まちづくり検討会議の開催 ⑥草薙まちづくりインターンシップの開催 ⑦JR草薙駅南北自由通路の広告事業に関する都市利便増進協定の締結 ⑧JR草薙駅北口駐輪場トイレ及び北口芝生広場に関する都市利便増進協定の締結	2	1	6,400	0	6,075	4.0	0.0	0.0	○
			2	7,000	0	6,994	4.0	0.0	0.0	
			3	7,000	0	6,820	3.0	0.0	0.0	
			4	2,000	0	1,870	2.0		1.0	
JR草薙駅北口周辺交通環境改善事業	①関係機関協議（静岡国道事務所、県警本部、清水署） ②関係者協議・調整（学校、自治会等） ③中之郷9号・国道横断に係る予備設計 ④中之郷9号に係る詳細設計、物件予備調査	3	1	0	0	0	1.3	0.0	0.0	○
			2	15,000	0	14,858	2.0	0.0	0.0	
			3	10,000	0	6,459	2.0	0.0	0.0	
			4	17,699	3,541	9,207	3.0		0.0	
JR草薙駅北口周辺土地利用計画（用途地域等）見直し事業	①令和3～4年度は活動なし ※これまでの活動実績 ・個別説明、全体説明会結果等を各戸周知、関係地権者対応（R元年度） ・見直し範囲の状況確認及び関係地権者の意向確認の実施（R2年度）	3	1	0	0	0	1.0	0.0	0.0	○
			2	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
			3	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
			4	0	0	0	0.0		0.0	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

本施策については、新型コロナウイルスの感染拡大などにより、人々の暮らし方や働き方が多様化したことに伴い、市民のニーズに応える都市空間の創出や多様な主体による地域の特色を活かしたまちづくりが重要となっている。このため、第4次総合計画に（都）草薙駅通線整備事業などを位置付け、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を図るとともに、エリアマネジメントにより地域の魅力を高め、地域の特色を活かしたまちづくりに取り組んでいく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

政策	2 地域の魅力と活力を高めるまちづくりを推進します
----	---------------------------

施策	2 大規模社会資本や観光資源を活かした交流拠点の整備
----	----------------------------

施策の目的	本市南東部に位置する日本平・三保半島地区は、名勝日本平をはじめ、国宝久能山東照宮、世界文化遺産構成資産「三保松原」等、世界に誇れる歴史的・文化的価値の高い観光資源が集まっています。当地区では、東名日本平久能山スマートインターチェンジの開設による富士山静岡空港を利用したインバウンド観光や、中部横断自動車道（新清水JCT）開通による甲信越地方からの新たな観光、国際拠点港湾清水港への国内外からのクルーズ観光、これらの観光客を積極的に誘致することで、観光を核とした地域経済の活性化を目指しています。
-------	---

評価責任者	所属	都市局 都市計画部 大谷・小鹿まちづくり推進課
	氏名	課長 桑原 源文

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	日本平山頂展望施設「日本平夢テラス」（H30.11月）、三保松原文化創造センター「みほるべ」（H31.3月）の開設や周辺の整備により観光客が増加している。また、「日本平久能山スマートインターチェンジ」の開通により交通アクセス性が向上し、効率的な回遊性が確保されたことが誘客に繋がっていると考えられる。さらに、スマートインターチェンジ周辺のまちづくり事業の推進による認知度の向上も図られている。よって、総合評価は「A」とした。
	令和2年度	—	理由	設定している指標日本平・三保松原観光入込客数について、新型コロナウイルス感染症予防による人流抑制の影響により適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。なお、コロナ禍においても日本平久能山スマートインターチェンジ利用交通の増加や、スマートインターチェンジ周辺のまちづくり事業の推進が図られている。
	令和3年度	—	理由	設定している指標日本平・三保松原観光入込客数について、新型コロナウイルス感染症予防による人流抑制の影響が令和3年度においても続いており適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。なお、コロナ禍においても日本平久能山スマートインターチェンジ利用交通の増加や、スマートインターチェンジ周辺のまちづくり事業の推進が図られている。
	令和4年度	—	理由	設定している指標日本平・三保松原観光入込客数について、新型コロナウイルス感染症予防による人流抑制の影響が令和4年度においても続いており適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。なお、コロナ禍においても日本平久能山スマートインターチェンジ利用交通の増加や、スマートインターチェンジ周辺のまちづくり事業の推進が図られている。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	2,624	2,666	101.6%	a	
2	2,649	1,759	66.4%	d				
3	2,674	1,807	67.6%	d				
4	2,699	2,151	79.7%	c				
指標成果以外の			1					・日本平久能山スマートインターチェンジ利用交通の増加 ※開通当初（R1.10）平均7,100台/日 ⇒ 半年後（R2.3）平均8,100台/日 ⇒ 1年半後（R3.3）平均9,700台/日 ⇒ 2年半後（R4.3）平均10,300台/日 ⇒ 3年半後（R5.3）平均11,100台/日 ・恩田原・片山土地区画整理事業：企業立地に向けた基盤整備の推進 ⇒ 事業進捗率87.5%（R5.3） ・大谷・小鹿地区まちづくり計画推進事業：宮川・水上地区の交流エリアとして民間活力を導入したまちづくりの実現に向けた土地区画整理事業の準備の推進 ⇒ 事業認可、組合設立 事業進捗率1.1%（R5.3）
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
日本平公園整備事業	①山頂施設整備 ・バリアフリー園路整備の用地交渉 ②平原ゾーン及びアクセス道路整備 ・平原ゾーン及び駐車場整備工事の実施 ・アクセス道路整備工事の実施	1	1	124,230	15,115	139,345	4.0	0.0	0.0	○
			2	161,906	277,886	439,792	4.0	0.0	0.0	
			3	255,588	233,310	488,898	4.0	0.0		
			4	314,999	114,270	302,998	4.0	0.0		
恩田原・片山土地区画整理事業	①土地区画整理事業の継続実施（組合施工） ・組合事務局への指導と補助金等交付事務 ・国、公共施設管理者との協議 ・法76条や地区計画の申請者への指導、協議	2	1	1,173,559	600,743	600,743	6.0	0.0	0.3	○
			2	694,289	1,173,559	1,173,559	5.0	0.3		
			3	714,857	694,289	803,969	4.0	1.0		
			4	339,795	605,177	630,227	4.0	0.0		
大谷・小鹿地区まちづくり計画推進事業	①宮川・水上地区まちづくり推進事業 ・都市計画決定に向けた関係機関との協議 ・組合事務局への指導と補助金等交付事務 ・国、公共施設管理者との協議 ・法76条や地区計画の申請者への指導、協議	3	1	6,698	0	6,313	5.0	0.0	0.3	○
			2	59,000	0	0	6.0	0.3		
			3	24,281	58,984	70,922	6.0	0.0		
			4	53,058	11,893	58,071	6.0	0.0		
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後の取組や方向性

本施策は総合評価のとおり新型コロナウイルス感染症予防による人流抑制の影響が令和4年度まで続いており適正な実績値を測定することができなかったため評価することができなかったが、成果指標である日本平・三保松原観光入込客数の令和2年度から令和4年度の達成率増加は13.3%であり、新型コロナウイルス感染症の影響は収束に向かっていると考えられる。また指標以外の成果の日本平久能山スマートインターチェンジ利用数は毎年順調に増加しており、恩田原・片山土地区画整理事業及び宮川・水上地区まちづくり推進事業についても順調に事業は進捗している。第4次総合計画の施策の目的については新型コロナウイルス感染症が収束すれば計画どおり達成できると見込み、運用に当たり成果指標の達成率を課題として捉えつつ、指標以外の成果である各事業を計画的に進捗させていくことを取組強化していくことで課題の克服を目指し、今後も大規模社会資本や観光資源を活かした交流拠点の整備の推進に向けて引き続き取り組んでいく。